

T u t t i

岡山県合唱連盟機関紙トゥッティ 87号

発行責任者：事務局長 西山 隆 幸

事務局：岡山県倉敷市玉島長尾 167-7 西山方

TEL(070)5673-1524/FAX(03)6862-9869

編集担当者：事務局次長 内田 毅

主な内容

2面 創立40周年マダムコーラス
創立20周年まきびコーラス

3面 全国大会出場＜合唱団こぶ＞

4面 トルコ演奏旅行＜鷺羽＞

新年度役員選出

去る1月19日(日)、岡山県合唱連盟臨時総会が開催されました。議長には野口氏(倉敷市民合唱団)が選出され、平成26年度から2年間の連盟役員・理事等の改選を行い、次の方々が選出されました。

理事長：小池 芳弘 (山陽女声コーラス・西大寺混声合唱団指揮者)

副理事長：内田 毅 (瀬戸内混声合唱団)

副理事長：長尾 節子 (学識経験者 元岡山県合唱連盟理事)

副理事長：松下 泰久 (倉敷男声合唱団指揮者)

監事：山本まさみ (瀬戸内混声合唱団 留任)

監事：井内 修 (岡山市民合唱団鷺羽)

事務局長：内田 毅 (瀬戸内混声合唱団)

理事団体：ジュニア部門：倉敷少年少女合唱団

中学校部門：未定

高校部門：未定

大学部門：岡山大学男声合唱団コール・ロータス／就実大学・就実短期大学グリークラブ

岡山理科大学混声合唱団クリスタルコール／川崎医療福祉大学合唱団ちよらす

一般部門：岡山混声合唱団／倉敷市民合唱団／津山市民コール『アンダンテ』

倉敷男声合唱団／レディース・アンサンブル

おかあさん部門：コールあまくさ／コール黄薇／山陽女声コーラス

コーロ グリーチネ／コロ・ポーニョ

なお今回選出に至らなかった部門の理事と常任理事は4月の定例総会で発表されます。

また、中国支部の理事として小池理事長と内田副理事長が参加することになりました。

【編集後記】

昨年4月に“Tutti を復活”と意気込んで事務局に入りましたが、復活して4回目の Tutti が予定通りに発行できることを素直に喜んでます。

これもひとえに原稿をお寄せいただいた皆様方のお陰とお礼申し上げます。内容的にはいかがでしょうか。つついとおかあさん大会・コンクール等で優秀な成績を上げられた団体にコメントをお願いすることになるのですが、でもこれはこれで必要なことと思ひ、一年の内に同じ団が複数回の記事にならないように気を付けています。各団からの積極的な原稿を待っています。

さて、私は新年度から副理事長と事務局長を兼務させていただくことになりました。幸いなことに副理事長を3名選んでいただきましたので、私

は事務局長を本務と考えて連盟のお世話をさせていただきたいと考えています。14年振りの事務局長の仕事になりますが頑張ります。

先日中国支部の臨時理事会が開催され、支部関連の事業も決まりました。岡山県には今秋は男声合唱フェスティバル、2年後には中国合唱コンクール、3年後にはおかあさんコーラス全国大会がやってきます。そして同じ年に連盟創立70周年を迎えるのです。次々と大きな事業をこなさなければなりませんので、今までにも増して皆様のご協力をいただかなければなりません。皆さんと一緒に新理事長を盛り立て、連盟を活性化して多忙な行事日程を乗り切っていきましょう。

(内田)

“継続は力なり”20年、40年と団を維持されてきたご努力に敬意を表します。

昨年、「マダムコーラス」は創立40周年を、「まきびコーラス」は20周年を迎えられました。それぞれ11月23日に記念演奏会を開催されましたのでコメントをいただきました。

「マダムコーラス40周年記念コンサート」を終えて

「マダムコーラス40周年記念コンサート」を昨年11月23日に岡南教会において無事に終えることができました。これもひとえに皆様方のお力添えの賜物と深く感謝しています。

マダムコーラスは、昭和48年に岡山中央公民館の講座として発足し、現在に至っています。私が指揮を受け継いでからも24年の歳月が流れています。40年の間に団員の入れ替わりや減少、また、高齢化などいろいろなことがありましたが、歌を愛する気持ちは変わらず、24名の団員はパワフルな向上心を持って合唱に取り組んでいます。毎週1回の、思いやりの気持ちを持ったなごやかな雰囲気での2時間の練習は生きがいともなっています。毎年、公民館フェスタ、合唱フェスティバル参加に加え、岡山市民大学コミュニティタイム、蚕クラブミュージカル、小柳ルミ子バックコーラス等数多く出演させていただきました。楽しい数々の演奏会に参加させていただいて、団員一同、

マダムコーラス指揮者 佐藤 桂子

充実した気持ちで次の課題に向かって精進しています。これからも健康である限り、美しいハーモニーを作り上げられるよう心一つにして楽しく歌っていきたくと思っています。

(Tutti前号で佐藤元伸さんの字を間違えて紹介してしまいました。お詫びして訂正します。)



「創立20周年記念 まきびコーラス コンサート」を終えて

まきびコーラス 加藤 朝代

まきびコーラス コンサートとしては、6年ぶりとなるコンサートです。

1年かけて少しずつ練習を積み重ねてきました。コンサートで歌う曲目も仁科先生方と一緒に団員皆で選び、構成をしました。プログラムは、3部構成で 1部「愛のことば」・2部「遠い日の歌」と題して、私たちの合唱で15曲を暗譜で歌い上げました。

2部では、仁科先生、中井先生のソロ演奏で花を添えていただきました。

3部の前に「みんなで歌いましょう」コーナーを設け、団員によるパフォーマンスが入り観客の注目を浴びました。1年間練習してきたことが90分の中に凝縮され、あつと言う間のコンサートでした。

ホッとした気持ちと観客の拍手と共に感動が押し寄せてきました。会場を埋め尽くす満席の観客の拍手と共に感動の高まりは消えることなく続き、観客と私たちのコーラスがひとつになった瞬間でした。

コーラスを初めて20年、今から思えばあつと言う間の20年でした。3歳になった次女を連れ

て始めたコーラス。その我が子も24歳となり、振り返れば喜びも悲しみも音楽によって支えられてきたように思います。団員一同これからも、皆様に愛される“まきびコーラス”を目指していきたいと思いますので、ご意見・ご指導のほどよろしくお願い致します。

また、今まで好きな音楽が出来たことに感謝するとともに、少しでもこの幸せを分かち合える仲間が出来ればと思っています。



全日本合唱コンクール全国大会

昨年の合唱コンクール全国大会は福山(中学・高校部門)と千葉(大学職場一般部門)で開催されました。岡山県からは“合唱団こぶ”が一般部門混声合唱の部に出場されました。中国コンクールでは No.1 との評価を受けた演奏でしたが、やはり全国には上手い団体がたくさんありますね。客席で聴いていましたが、まだ若い彼らがステージ一杯に広がって堂々と歌う姿に感動し、涙しました。来年は高松ですから皆で応援に行きましょう。

全国大会を終えて～共有する～

合唱団こぶ 指揮者 大山敬子

共有する・・・喜びを共有する、悲しみを共有する、もどかしさを、悔しさを、幸せを、そして感動を。さらに感謝を。

合唱団こぶの21年目はまたまた平均年齢21歳で、そして新体制でスタートしました。メンバーの入れ替わりもはげしく、さまざまな年齢の団員たちが同じ目標を持ち、高いモチベーションを共有し維持することは大変難しい。そのためには多くの苦しい努力が必要であることを実感した年でした。そしてその努力のエネルギーの源となるものが、「音楽」であることを改めて感じました。美しい課題曲、歌わずにはおれない慈愛深い自由曲に助けられました。(こぶはいつもコンクール向けの曲というより、好きなものを選んでくるよね・・・などとも評されて・・・まあ、確かに。)

中国大会の場で全国大会出場が決まった瞬間の嬉しさ、一日おいて「全日本理事長賞」の連絡を受けたときの驚き・・・めざしていた結果を手にし、全国への期

待を高めたのでした。しかし、全国大会の世界はさらなる高みを私たちに見せつけます。「銅賞」という結果にそれぞれの胸中は複雑でした。同時に素晴らしい音楽や音楽仲間に出会え、自らの音楽を見つめ直すことができ、新たな決意を持つことができました。

岡山県の代表として、中国地区の代表として、いっぱいの励ましや支援をいただいて全国の舞台に立ちました。地元総社、県合唱連盟の方々、応援してくださる方々に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

響き、イメージ、伝えたいことを強く共有する音楽。喜びの前の試練を共有できる生き方。それらを重ねながら、また全国大会の舞台に立ちたい。そして感動のもとに歌いたいのです。

共有する「祈り」と「感謝」を。

今年もこぶはファイトします！



トルコ親善公演

岡山市民合唱団鷺羽 団長 田辺 真一

岡山市民合唱団鷺羽は、昨年(2013年)8月15日～8月22日に岡山トルコ文化センターの日本・トルコ交流ツアーの企画により、トルコ親善公演を行いました。団員全員の参加はかありませんでしたが、約半数の団員(随行員を含めて37名)が参加しました。

8月17日にイスタンブールで、黒海とマルマラ海(黒海とエーゲ海の間にある海)を結ぶボスフォラス海峡をクルーズしながら、ジョイントコンサートを共にするメフテルバンド(軍楽隊)のメンバーと交流しマルマラ海に浮かぶプリンシエス諸島にあるリゾート地、ヘイベリ島に渡りました。船上からは、沿岸に立ち並ぶドルマバフチェフ宮殿、モスク、ベイレルベイ宮殿、ルメリの要塞、アナドルの要塞、ヨーロッパとアジアを結ぶボスフォラス大橋など1,300年後半から現在までに造られた新旧入り混じった建造物を見ることができて、トルコの歴史の深さと、発展を知ることができました。

会場は、プールサイドにある野外コンサート会場で砂浜に観客席の椅子が並べられ、海に向かって演奏するように設営されていました。

演奏会では、トルコの古楽器や打楽器などを中心としたメフテルバンドと鷺羽の合唱を交互に演奏を交換しました。東の端日本と西の端トルコとのアジアの融和を図ると言う意図があったのだと思います。鷺羽はモンテベルディーの Lagrime d'Amante al Sepolcro dell'Amata(愛する女の墓に流す恋人の涙)より Incenerite spoglie(灰となった死骸)と Ditelo voi(お前たちよ、それを語れ)の2曲と混声合唱による日本の四季 夕やけ小やけより「春の歌」「海」「叱られて」「冬景色」を演奏しました。また、トルコの曲と「花は咲く」、「さくら」を合同演奏しました。「さくら」はメフテルバンドのネイという葦でできた楽器がまるで尺八のような音を出し日本情緒をかもし出してくれました。また、「花は咲く」は、メフテルバンドが加わると行進曲になってしまう面白さを体験しました。午後7時開演予定が2時間遅れの午後9時開演で、終わってホテルに着いたのが午前2時過ぎというハードなスケジュールでしたが、思い出深いものとなりました。

次の日(8月18日)は、トルコのほぼ中央にあるコンヤという町にバスで移動し、コンヤセルチュク大学の中にあるグレルサバンジュホールでこの大学の先生方を



中心としたトルコの民族音楽との親善公演をしました。夏休みということで聴衆は少なかったのですが、ここでは、調律のきちんとできていないピアノでの伴奏でしたが、鷺羽単独の演奏もでき(曲目は17日とほぼ同じ)、トルコの音楽と日本の音楽の合同演奏も入れた交流もできました。「さくら」はトルコの古楽器カーヌーンという台形の箱に弦を多数張り巡らせた楽器がまるで琴のような音色をだして演奏され、それに鷺羽の合唱が加わりました。どちらも、トルコの民俗音楽とマドリガル、日本の童謡という異なるジャンルの音楽との交歓演奏会でしたが、トルコの時間のゆっくりとした流れのなかで、日本とトルコの演奏会に対する心構えの違いや1時間や2時間の遅れはトルコではあたりまえという、日本では考えられない感覚を体験でき、有意義な親善演奏会となりました。

